

# いろいろな投信を紹介されるが、 どんな基準で選べばいいか よくわからない



## こんなトークで こたえよう



投資信託を選ぶ基準は様々あります。例えば、リスクをどの程度許容できるかです。若い方であれば積極的な運用もよいですが、定年前後のお客様の場合、保守的な運用がベースになるかと思えます。

具体的には、お客様が退職金や老後資金の一部を運用されるのであれば、預貯金を主体としつつ、そこに国債などの債券投信や、少しだけJ-REIT投信などを組み込むのはいかがでしょうか。逆に

## 解説

余裕資金での運用をお考えでしたら、米国株式や世界株式投信による運用を考えてみて、もよいかもありません。より詳細な商品に関するご説明もさせていただきますので、ぜひご検討ください。

投資信託の運用対象は、国・地域、業種、大型株・中小型株など多岐にわたる。また、金融機関により、取り扱っている投資信託も異なる。そのため、複数の金融機関などに相談すると、「むしろ判

断がつかなくなり「選べない」というお客様も多々あることだろう。ではそういったお客様に「どんな基準で投資信託を選べばいいか」をどう説明すればよいだろう。どう説明するかは、その時々の投資環境やお客様の状況により異なるが、ここでは定年前後のお客様にアドバイスできるポイントについていくつかみていく。

## どんな資金での 運用を考えているか 改めて確認する

ポイント①…どのような資金で運用するのか

リスクがとれるかとれないかにより運用対象は大きく異なる。時間を味方につけることができる若年層であれば、株式主体の積極運用も可能だが、定年前後のお客様の場合、どちらかといえば保守的な運用が主体となる。もちろん、老後資金が確保できていると、余裕資金の中から運用するというのもよいといえるが、老後資金の原資にするための退職金の運用といった場合には無茶なことはできない。

そこで、こうしたご相談を受けた際には、お客様に今一度、どのような資金で運用するのかを聞いてみよう。特段すぐに使うお金ではなく、余裕資金である場合には、米国株式や世界株式投信による運用により増やす視点があってもよい。一方、退職金運用や老後資金の一部の運用であれば、預貯金を主体としつつ、国債などの債券投信、少し欲張ってもJ-REIT投信などを組み込むくらいの運用